

第3回庄内町立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時：平成24年2月29日（水）19時40分～20時55分
- 2 開催場所：庄内町立図書館 二階自習室
- 3 出席委員：小野寺姫、池田孝一、渡部登美雄、日向ゆき、齋藤すぎ、日野淳、小野寺博
- 4 欠席委員：なし
- 5 事務局：図書館長、主査、主任
- 6 教育委員会：庄内町社会教育課長

進行：主任

1 開会 主任

2 あいさつ

○会1 第2回「庄内町子ども読書活動推進計画」（18時15分～19時35分）

○その後 会2 第2回「庄内町立図書館協議会」（19時40分～20時55分）

○委員長あいさつ（会1であいさつ）

連日の大雪で大変だったが、今日は天候も良くあたたかい。最近感じたことで、日本語を大事にしたいと思うことがあった。子ども読書も学校教育にゆだねるしかない世の名であるが、大人の責任として子ども読書に取り組めば、その小さな取り組みが大きな成果につながると思う。みなさんからたくさんのご意見をいただきたい。

○館長あいさつ（会1であいさつ）

年度末のお忙しい時期にお集まりいただきありがとうございます。先日、学校地域支援事業本部実行委員会が開催され、各学校の取り組みにより読書の実態が伸びており、本の好きな子が育っていることや本を手渡す人が増えており、大変うれしく感じてきた。親世代の方々も子どもと一緒に読むことの大切さを実感し、親子読書への取り組みや読み聞かせなどの取り組みが行われうれしい事であった。私たち大人が努力して、さまざまな形で子どもたちに関わっていかないといけないと思う。

○課長あいさつ（会2であいさつ）

図書館、記念館の運営にご指導ご協力いただき皆さんに感謝したい。今年度東日本大震災の影響等もあり、図書館の利用者が減少しているものの、学校や幼稚園など貸出しや読み聞かせも充実してきている。企画展の阿部智幸先生の絵画展においても、生徒さんはじめ多数の来館者の増につながった。本日は、運営計画などについて議論していただきたい。

3 協議事項

- (1)庄内町立図書館・庄内町内藤秀因水彩画記念館における事業総括について
- (2)平成24年度庄内町立図書館運営計画（案）について

(3)平成24年度庄内町立図書館協議会年間計画(案)について

(4)平成24年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画について(案)

《事務局説明》

○(1)の資料の内容説明

(委員長)今説明いただいた図書館・記念館の事業総括について、質問、意見をいただきたい。

《協議の内容》

(委員)図書館に調べものや勉強、資料を探す人が少ないのは、インターネットで情報を手軽に探せるようになったことも利用者の減少の一つではないか。今はインターネットで手軽にいろいろの情報が得られる。しかし、正しい情報かどうか見分ける力がないと、その情報をうのみにしないかと心配している。自分より若い人たちは、インターネットで情報を得た方が早いと感じていると思う。

(事務局)出版業界も大転換期である。電子書籍、インターネット社会はもうきていて、図書館も電子書籍と共存の時期。職員がこれらを勉強して、アナログとデジタル化の混在する社会に危機感をもって対応しなければならないと思う。

(委員)NHKの番組で電子書籍の貸出しについての放映があり、北海道でも試験的に電子書籍を無料で貸し出す図書館など話題提起があった。電子書籍の成果品を無料で貸し出すことは、考えた人の労力が報われないのではと思う。私は活字で見るのがいいと思うが、図書館としてはそういつていられないと思う。

(事務局)現代は、物心つくと携帯がある時代。ペーパーと媒体がちがうだけで、メール等を打ちながら誰かといつもつながっており、そういう意味では活字離れではない。図書館はどういう立ち位置で、情報拠点としての存在意義、役割を果たしていくかである。

(委員)これらに対して、県の指導はあるか。

(事務局)県からの指示はない。

(館長)出版業界でも、新聞も電子媒体と紙と一緒にあってほしいようだ。

(事務局)大手出版10社が手を組み、電子書籍に向かっていく姿勢とを感じる。そこを見据え足を大事にしていく。

(委員)NHKで放映していた電子書籍のスタイル増えてくると思う。我々がインターネットで検索するとき、キーワードさえ入力すれば、短時間で労力もなしに様々なことができる。これに無理に対抗しても仕方がない。流れはどんどん電子書籍にいくだろうと認識している。

(委員)来館者数を増やすには、貸出を増やし図書館に足を運んでもらうこと。アイパットなどで電子書籍に触れてもらいながら、そういう切り口で新しい人たちを増やすきっかけづくりできないか。

(事務局)最先端の図書館では電子書籍の利用を行っている。著作権がからみ出版業界、作家、図書館全体で勉強することが必要。著作権をどうクリアするか、なかなか踏み出せない。

(館長)本を売る、買う、そこをどうするのか。図書館も業界全体で今の段階で読みきれないところである。

(事務局) 図書館は無料が原則である。ただ資料を閲覧しコピーする場合は、対価を求めているのである程度受益者負担は求められるかもしれない。

(委員) 図書館に来なければできないこと、同じ本を何度も読み、関連資料で調べたりとか、図書館に魅力を見出した人は必ず図書館にくるのではと思う。

(委員) 退職者や団塊の世代の方々に対して、どう図書館に足を運ばせるか、図書館に来るきっかけづくりをどう進めるかだと思う。

(館長) 今の図書館の施設では無理。こういう図書館に通いたいと思う何分の1もできていない。

(事務局) 図書館に新聞・雑誌とか4種類しかないのはありえない。近隣の酒田市の図書館には、たくさんの新聞があり、いつも利用者がたくさん訪れ活気がでている。ここは、全国誌も1つしかない。50才から59才の利用者層も低下している。マネージメントという意味では、マーケティング市場のひとつとしてどう取り込むかご指導いただきたい。

(館長) ここでは、図書館の資料を活用し、パソコンで対応できる設備がない。現在ではどこの図書館でも日常的にパソコンができる設備がある。

(委員) 50才から59才の利用者が少ないとすれば、例えばお金も電気もかかるけど、マッサージチェアに座りながら新聞を見ることができると、設備機器の導入も一つの考えではないか

(委員長) そうなると、図書館建設整備の基本構想に関わってくる。

(事務局) 今の新設の図書館は、あらかじめ無線をはめ込んだ形で設備されており、そういう視聴覚ブースが必要と考える。

(委員) 50才から59才の利用者は平成21年度はどうだったのか。年齢のスライドがあるのではないか。

(事務局) データとしては、10歳単位で抽出しているためあまり影響はないと思う。この年代は、仕事面や社会的にも立場が向上し、時間や気持ちの余裕が無くなる時期であると分析している。また、男性のニーズに対するサービスが不足であると感じている。

(委員) この年代は、昭和30年代に生まれ、自主性を尊重した時代であり、自分の意思を変えてはやれない年代だと思う。図書館に魅力を感じて図書館に足を運んでもらう。図書館で課題解決できるのだという快感を体験してもらうことで、図書館の存在が全然違うのではと思う。

(事務局) これまで、広報しょうないのコーナーで親子読書をテーマとした児童書の紹介のところを、視点を変えて、一般利用者向けのコーナーにリニューアルしようとしている。図書館には、多様な資料があって、いろいろなニーズに対応し活用できるところ。ビジネス支援や農業分野など視野に入れて内容を展開しようとしている。小さな一歩だが取り組んでいく。

(委員長) インターネットの普及には立ち向かえない。いろんな方策が必要。それらに頼れない人たちを大事にしていくべき。入館者数だけでなく別の形での指針の評価も大事ではと思う。

《事務局説明》

○ (2)(3)(4)の資料の内容説明

(委員) 書館開館100周年記念事業と庄内地域男女共同参画講座の連携事業の「落合恵子さんの講演会だが、以前遊佐町で彼女の講演会を聞いたことがある。講演会の内容も重複することも予想

されるため、記憶が新しいところで聴講者が集まらないかと懸念される。

(館長) 庄内地域男女共同参画講座と図書館との共催にさせていただいた。図書館の立場で本の大切さを伝えたい。落合恵子さんの講演会には、若い世代やまた町外からも来てくれると期待している。

(委員) 図書館は老朽化し、長期的な修繕も視野に入れるべきである。現在の図書館の環境を見ると利用者がそっぽを向く。切実な環境を伝えないといけない。予算要求することが必要と考える。記念館も同様である。

(委員) 平田の図書センターに行くと、利用者が自由に利用できる部屋もあり、庄内町からも利用されている。現実的に現在の図書館の建物では限界があるので、一日でも早く庄内町の図書館の建設が実現されることを望む。

(5) その他

(委員) 言葉の問題で、部落とか啓蒙とか差別化している言葉のため使いにくくなっている。話題提供として啓蒙など使いにくくなっている状況のため話題になっているので注意してほしいと思う。

(館長) 部落という言葉は、行政では気になり変えていると思う。

(課長) 行政では、行政区長といっている。

(委員) この町では、部落史と使用しているところもあり、そういう意味では、誇りに思っている。町内会史ではそらぞらしい響きがあり、気にする編集委員は、〇〇のあゆみなどと表現しているところもあるようだ。

(委員) いつも図書館を利用させていただいて感謝している。以前より、一般閲覧室等を利用する子どもたちや高校生の勉強の仕方がとても良くなってきていると感じている。図書館員の努力もあるのではと思っている。

《事務局説明》

次回開催日程：平成24年5月下旬予定

4 その他

特になし

5 閉会